

各地の自然災害で被災された方々、新型コロナウイルスに感染された方々、ウクライナの戦禍の中にある方々に、心からお見舞い申し上げます。神様の慰めと助けがありますよう、お祈りしております。

イースター礼拝

4/9 (日) 10:30~

イエス・キリストが十字架にかかって死なれ、3日目に復活されたことを記念して、イースター礼拝をささげます。どなたでも、お越しください。聖歌隊の賛美があります。



はっぴいイースター in 宝塚 入場無料

4/15 (土) 14:00~ 「よみがえりの希望につながる終活」

講師：野田 和裕 さん (株式会社ライフワークス代表取締役)

今年のイースターは、死の先にある復活の希望を共に分かち合う時となることを願い、野田和裕さんをお迎えし、メッセージを語っていただきます。きっと希望の光が見つかります。ご期待ください。



【プロフィール】

1974年福島県生まれ。東京基督教大学神学部卒。祖父のクリスチャンビジネス開拓精神にならい、2006年に大阪でキリスト教専門葬儀社を設立。「葬儀・終活から生き生きする人生を発信する！死をみつめる事は、豊かな人生を築くことにつながる。死をみつめ、真剣に生きる事が大切だ。」を志し、葬儀・終活をトータル的にサポートする事業展開を目指している。

教会からのオススメの一冊

「あなたを諦めない 自殺救済の現場から」

藤藪庸一・著 (いのちのこば社発行)

南紀白浜にある三段壁は、国の名勝にも指定されている自然景勝地ですが、自殺の名所としても知られています。そんな三段壁の傍らにある電話ボックスの横には、「いのちの電話」と書かれた立て札が建てられています。白浜バプテスト教会の牧師・藤藪庸一先生が、自殺救済のために設置されたものです。先生は、NPO白浜レスキューネットワークを立ち上げ、これまでに900人以上の自殺志願者の方々と向き合い、その救済に尽力して来られました。そんな先生の著書「あなたを諦めない」をご紹介します。

本書は、追い詰められて絶望し、三段壁へやってきた人たちに、タイトルの通り、先生が諦めずに向き合い、救済する姿を克明に描いた記録です。また同時に、この重大な使命に対する先生の思いも、余すところなく語られています。

以下、本書から引用します。



「はじめの頃も、今も変わらず、三段壁に保護に向かって本人と出会っても、ほとんど話をしてもらえず、こちらからの話もほとんど聞いてもらえないことがある。でも、そこで私が取る方法は、そばにすること。それだけだ。<中略>反応のない自殺志願者に対して私ができる基本中の基本は、そばにすることなのだ。関わる覚悟を決めながら、そばにすることをやめないこと以外に、できることはないだろう。」(176頁)

人は、窮地に追い込まれると、きれいごとやうわべの言葉は通用しなくなります。そんな人に、生きる希望、前を向くことの素晴らしさ、あなたは必要とされているというメッセージを伝えることは容易ではありません。だから、まずその人のそばにすることが土台なのだ、と先生は語ります。

一人一人と向き合う先生の姿を通して、私はふと、キリストも私たちのことを諦めず、ずっとそばにいて、私たちの心の中にある苦しみや悲しみを知ってくださるのだ、と思いを馳せました。十字架にかけられ、その命をかけてまで、私たちを愛して救ってくださったキリストの姿を、先生の中に垣間見たような気がしました。

宝塚栄光教会

牧師：岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9 TEL:0797-73-6076

E-mail : info@takara-eikou.com https://www.takara-eikou.com



礼拝 毎週日曜日
10:30~11:40

希望のダイヤル (聖書のお話)
0797-77-3746
毎週更新。24時間つながります。
ホームページからも利用できます。

わたしたちは旧・統一協会、ものみの塔(エホバの証人)、モルモン教ではなく正統的なプロテスタントのキリスト教会です。お困りの方はご相談ください。

川面に冬のけわしさが消え 春の気分が みなぎっている



その打ち傷のゆえに

キリスト教会では、今、受難節という期間を過ごしています。イエス・キリストが、私たちのために十字架の苦しみをお受けになったことを深く思う期間です。

イエス様の受けられた苦しみは、言語に絶するものでした。イエス様は、まず人々に捨てられました。イスカリオテのユダに裏切られ、シモン・ペテロにも三度否定されました。ほかの弟子たちも皆逃げました。

またイエス様は、肉体的にもひどい苦しみを味わわれました。平手でたたかれ、むち打たれ、ついに両手両足を十字架に釘づけられました。その痛みは、とても言葉では言い表せません。

イエス様は神の子でしたが、私たちと同じ人となってこの世に来られました。ですから、痛みも感じれば悲しみも覚えられたのです。十字架につけられた時の痛みは、どれほどだったのでしょうか。

しかし、イエス様の苦しみは、もっと深いものでした。イエス様は、十字架の上で「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と叫ばれました。神様が

ら捨てられるはずのない神の子が、神様から捨てられたのです。それは私たちの罪のためでした。

私たちは、神様の前に滅びゆく汚れた罪びとです。しかし、愛なる神様は、私たちを救いたいと思われ、ひとり子イエス様を私たちのもとに送って下さいました。イエス様は罪のないお方でしたのに、罪びとの私たちに代わって十字架について下さいました。本当は私たちが神様から捨てられなければならないのに、私たちが捨てられなくてもよいように、捨てられるはずのないイエス様が神様から捨てられてくださったのです。

聖書にこうあります。「しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎(とが)のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。」(イザヤ書53章5節)

自分の罪を悔い改め、イエス様の十字架がこの自分のためだったと信じれば、私たちは誰でも、どんな罪でも赦され、救われます。あなたもぜひ、イエス様の十字架を信じて、罪からの救いをいただいでください。



「雪割草」 — 春を告げる花 —

3月 まだ寒さの残る この頃
雪が積もる地域で 春を告げ知らせる花として
知られているのは 雪割草と呼ばれている花

残雪を割り かき分けるようにして
いち早く伸び出して 花を咲かせるので
雪割草と名づけられた 山野草である

雪解けと共に 開花してくる様子が
まるで何かを 語りかけているような
小さな顔を もたげてくる花である
真冬の雪の下でも その葉は常緑のまま
三つの尖った角を持った葉で ^{ミスミソウ}三角草とも呼ばれる花である
落葉樹の下など 明るい日陰の 風通しのよい場所を好んで 自生しているが
花が開いているのは 日光が射した時だけである
曇り日や
寒い日には 花はそっと閉じていく

背たけは 10~15cmほど 花の大きさは 直径1~1.5cm
小さな 小さな花であるが 人々に愛されている花である

わたしは 主を愛する
主は 嘆き祈る声を聞き
わたしに 耳を傾けてくださる
生涯 わたしは 主を呼ぼう

詩編116編 (聖書)